



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2014年もそろそろ暮れようとしています。思い返せば電子カルテの導入にあたふたしながら年を越し、大雪に見舞われて四苦八苦、春には精神保健福祉法の改正で様々な変換を余儀なくされました。その後も諸々とあり、安穩とした時はほとんどありませんでした。徐々に開き直ってきて、最近では「矢でも鉄砲でも・・・」と思いたくなります。それでも病院として様々な問題を乗り越える力が少しは付いてきたのではないかと、思えるようになってきました。

さて、間もなく新たな年を迎えます。2015年、ミサトピア小倉病院は地域における存在感をもっともっと増していきたいと思っています。外来もなくひっそりと始まった当院ではありますが、開設から10年を超えてこの地域でやれることがまだまだあるはずだと思います。医師会の会合に参加しても安曇野市における数少ない病院の一つとして、とても期待されていることを常にかけています。

それには地域の医療機関、行政、福祉などとの連携が重視されます。様々な機関との関わりを持つことでミサトピア小倉病院が持つ特色を理解してもらうこと、そして病棟、小倉ホーム、ミサトピア小倉醫院といった当院の持つ資源をフルに活用して、我々には地域に貢献できる力がある、ということを知ってもらうことが2015年の目標です。

まずは自分たちの足元を固めること、仲間を信じてお互いに補い合って、安心・安全な治療・療養環境を作り上げることが第一歩と考えています。

表紙写真 作品紹介 「雪だるま」

今号では、作業療法で患者さんが作った作品の紹介をします。風船に新聞紙を貼り型を作ってから風船を抜いて、白い紙を貼り目や鼻などを付けました。患者さんが編んだマフラーを巻いています。

精神科病棟だより

1-3病棟 レクリエーション

平成26年10月29日（水）に、ペタンク大会を開催しました。午前中に院内の喫茶室で、午後のレク終了後に食べるぶどうゼリーを数名の患者さんが作り、おやつの準備を行いました。

午後は、体育館でペタンクゲームを行いました。あまり聞きなれないスポーツですが、今回のレクでは、床に点数表を書いたマトを置き、そのマトめがけてお手玉を1人2回投げ、合計点数が高い方が勝つというルールでゲームを行いました。



まず、準備体操を行い、さっそくゲームに移りました。車いすの患者さんもゲームに参加でき、多くの患者さんにいつもの病棟ではみられない笑顔や高い点数をねらう一生懸命な姿が見られました。患者さんから、「おいしい」「おー」というかけ声があり、盛り上がりました。

おやつの中には、午前中に作ったぶどうゼリーをみなさんおいしそうに食べていました。

2-3病棟 リラクゼーショングループ

2-3病棟では、作業療法（OT）の一環として、10月からリラクゼーショングループという活動を行っています。この活動は、4つの活動内容を毎週ローテーションで行っています。

1つめは『ヨガ』です。OTのスタッフをお手本にして、身体を動かしています。

2つめは『自律訓練法』です。これはリラックスを目的とした一種の自己催眠です。疲労回復・ストレス緩和・仕事や勉強の効率向上・抑鬱や不安の軽減などの効果があり、心身症や神経症などの精神科・心療内科領域の疾患にも効果があるようです。

3つめは『マッサージ』です。患者さん自身が、手やフェイス用ローラーなどのマッサージ器具を使って、顔や足のマッサージを行っています。



4つめは『足浴・手浴』です。足や手をお湯につけながら、OTのスタッフがマッサージを行います。

このグループは、自分の身体を知ること、現実感の回復を図るということ、身体および精神の緊張緩和をするという目的を持って行われています。参加者は毎回10～15名程度で、男性の患者さんが多いようです。患者さんに心地よい時間を過ごして頂けるよう今後も協力しあって行っていきたいと思います。

介護療養病棟だより

状況理解力のリハビリテーション

臨床心理士 中山 聖悟

認知症療養病棟では、身体を動かして脳機能を活性化させるために、「何時に」「どのプログラムを」「どの患者さんを対象として」行うかという活動のプログラムを、作業療法士を中心に病棟スタッフみんなで作成し、定期的な見直しを行いながら運用しています。実施には様々な工夫、技術、ポイントがありますが、そのポイントの1つ、集団活動による状況理解力のリハビリテーションをご紹介します。



患者さんに提供する活動は「個別・小集団・大集団」と目的に応じて形態が変わります。それぞれに特徴があり、集団活動には「結果を褒めてもらえる」「結果を共有できる」「結果を競える」など多くの利点があります。でもその他に「具体的に何をすれば良いのかわからないけど、周りの人の動きをみて、なんとなく合わせる事ができる」という利点があります。

この「なんとなく周りに合わせる」というのは、言葉は使わなくても実はとても脳をフル回転させる動きであり、認知症で問題となる見当識・状況理解力と密接なかかわりを持っています。スタッフからの指示ではなく、自分で患者さんが「なんとなく」周りに合わせて活動に取り組む、それも大切なリハビリテーションなのです。



大町混声合唱団

平成26年10月15日（水）に、病棟のホールにおいて、大町混声合唱団のみなさんによる合唱を披露して頂きました。リーダーの方は介護療養病棟に入院されている患者さんのお孫さんで、そのお孫さんのご厚意により来て頂きました。

合唱の曲目は、「青い山脈」「りんごの唄」「上を向いて歩こう」など普段患者さんが病棟活動のカラオケで歌っている曲を披露して頂き、スタートから大盛り上がりとなりました。



また「小さい秋みつけた」「赤とんぼ」などの季節に合わせた秋の歌もしっとりと聴き、「星影のワルツ」では、1人の患者さんが前に出て合唱団のみなさんと歌い、とても生き生きとした患者さんの姿を見ることができました。

沢山の合唱を堪能した患者さんからは、「若い頃を思い出した。」「色々な歌を歌ってくれて楽しかった。」などの感想が聞かれ、とても楽しい時間となりました。

普通救命講習Ⅰ 開催

ミサトピア小倉病院では、定期的に様々な院内研修会を開催し、共に学ぶ機会を設けています。

平成26年12月13日（土）には、梓川消防署より講師をお招きし、院内の大会議室において普通救命講習Ⅰの研修会を開催しました。20名のスタッフが参加し、2つのグループに分かれて



緊急時の心臓マッサージやAED（自動体外式除細動器）の使い方などを教えていただき、実際に体験しました。



様々な職種のスタッフが参加したため、互いにコツなどを教えあい、和気あいあいとした雰囲気での研修会となりました。休憩をはさみ、3時間程の研修会となりましたが、真剣に取り組み、あっという間の3時間でした。

衆議院議員総選挙

当院では、選挙の投票日に、病状が思わしくない・単独での外出ができないなどの理由のため、地域の投票所へ行くことができない患者さんに対して、不在者投票施設の指定を受け対応しています。

平成26年12月14日の衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査では、56名の患者さんが、院内の大会議室と各病棟において、不在者投票を行いました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されことなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

ミサトピア小倉病院は、グループホームの小倉ホーム開設や、精神保健福祉法の改正による医療保護入院、地域移行支援のための手続き見直しで早期退院が促される等変革の1年でした。

長野県内は、南木曽の土砂崩れや御嶽山噴火、白馬大地震と災害に見舞われた禍の一年でした。来年はもっと福来たる年になって欲しいと願うばかりです。

広報委員長 樋口 孝